

森の木を伐りながら生き物を守る

—木材生産と生物多様性保全の両立に向けて—

伐採時に一部の木を残すことで、生物多様性保全を目指す「保残伐」の大規模実験が始まりました。その実験とともに、環境に配慮した林業の先行的な取り組みをご紹介します。

保残伐施業の実証実験

保残伐の実証実験で行うこと、分かること

尾崎 研一(森林総合研究所)

林業の経済性と公益性の両立を目指して
～保残伐施業は北海道林業にどう役立つのか～

鈴木 匡(北海道水産林務部)

源流域の水土保持と小さな生きものたちの関わり
～保残伐施業は水域生態系の多様性に貢献できるか？

長坂 晶子(道総研林業試験場)

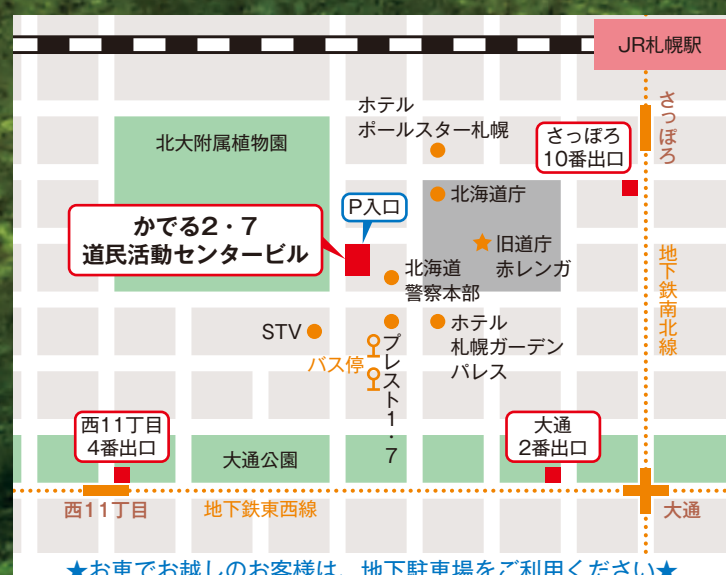


日時

2014年4月26日(土)
13:00～17:00

会場

かでの2・7 8階
820研修室



先行事例

命輝く森林 ～環境配慮型人工林管理技術～
速水 亨(速水林業代表)

生態系のプロセスを尊重した伐採施業
～世界的な広がりについて～
森 章(横浜国立大学)

生物多様性保全と地域づくりに向けた協働
～赤谷プロジェクトの挑戦～
茅野 恒秀(岩手県立大学)

お申し込み、お問い合わせは tayousei2014@ffpri.affrc.go.jp まで(当日参加も可 入場無料)
詳細は森林総合研究所北海道支所ホームページ(<http://www.ffpri.affrc.go.jp/hkd/>)をご覧ください